

いしだたみ No.152

2006年11月

洋画家 末永胤生氏の記帳

(本館『芳名録』1961年7月3日来館 記帳)



末永胤生氏は、1913(大正2)年、長崎市に生まれました。文化学院美術部卒業後は、独立美術展を中心に活動し、1942(昭和17)年独立賞受賞、頻繁に個展を開催されていました。

1966(昭和41)年フランスに渡り、現在もパリで生活されています。フランスアンデパンダン展会員に推挙され、光り輝く色調から「光の画家」と評されています。

本館『芳名録』には、1957年1月、1962年5月にもドローイングを描いておられます。他にノートルダム寺院を描いた色紙も所蔵されています。

末永氏の著書『私のギリシア・エーゲ海案内』(主婦の友社1978年)は、画家独特的の視点で、地中海の雰囲気を記述しています。この中には、旅行中のスケッチも収められています。

● ● ● ● もくじ ● ● ● ●

- ◎郷土資料案内シリーズ「芳名録」 P 1
- ◎図書館実務研修会・AEDを設置しました・「長崎ゆかりの文学」展示のお知らせ ... P 2
- ◎県立長崎図書館のサービス P 3
- ◎長崎の児童文学者 本間千裕氏 P 4
- ◎こどもの本をしらべるための本〈外国の文学〉・文学に描かれたふるさと ... P 5
- ◎長崎県読書グループ連絡協議会へのお誘い・行事予定・休館のお知らせ P 6



「平成18年度 第1回 図書館実務研修会」を開催

9月25日(月)、県立長崎図書館講堂において、県下公共図書館職員及び大学図書館職員に対する「平成18年度第1回図書館実務研修会」が開催されました。二人の講師の講演及び県内の図書館の事例報告に、参加者130名が熱心に耳を傾けました。

まず、国立市立くにたち中央図書館の藤村せつ子氏が、「レファレンスのココロ～探しやすい、尋ねやすい図書館を目指して～」と題して、



- 利用者にとって探しやすい、聞きやすい、満足のいく回答を得られる図書館づくりとは
- レファレンス・インタビューの心構え

(共同・協動作業としての認識、親和感や信頼感の醸成、会話の工夫)

- レファレンス記録の重要性(個人のメモから図書館全体のレファレンス記録へ)

という観点から具体的な説明を行い、「日常業務の中で経験を積み重ねる中で、図書館員としての責任を自覚し、組織としてのレファレンスに努め、信頼される図書館を目指すべきである。」と話されました。

次に、日本図書館協会理事・事務局次長の常世田良氏が「ビジネス支援のための図書館サービス」と題して、日本の図書館政策の必要性を次のように説かれました。

自己判断・自己責任型社会へと進む中で、情報収集のニーズが高まる



公的な組織として、正確な情報が公平に提供されるシステムが必要



図書館は情報の宝庫であり、図書館員に求められる役割は、情報収集・提供者、評価者、発信者、教育者、ナビゲーター、カウンセラーなど多様である



そして、「ビジネス支援というが、ビジネスにしか使えない資料など存在せず、情報の多様性に対応し、すべての市民の役に立つ図書館である必要があり、目の前の利用者のニーズにまず応えることが図書館サービスの最大原則である。」と話されました。

最後に、諫早市立諫早図書館の山口保彦副館長による事例報告「諫早図書館ビジネス情報コーナーについて」があり、コーナーを開設するまでの3年間の経緯とその運用、今後の課題等について話されました。

AED(自動体外式除細動器)を設置しました

AEDとは電気ショックが必要な心臓の状態を判断できる心臓電気ショックの器械です。

心臓突然死の大部分は心室細動という病気で、この心室細動を正常な状態に戻す唯一の方法は除細動(心臓への電気ショック)です。

県立長崎図書館では、3階一般閲覧室のカウンター横に設置しています。

「長崎ゆかりの文学」展示のお知らせ

4階郷土資料展示室では、長崎ゆかりの作家や作品を展示・紹介しています。

平成18年12月から平成19年3月までは長崎を舞台とした作品の紹介です。題名に地名を含んでいるものや、映画化・ドラマ化されたものはよく知られていますが、その他にも県内各地が舞台になった作品がいろいろとあります。

ぜひ一度ご覧ください。

ご存知ですか？

県立長崎図書館では、このようなサービスを行っています

調査相談(レファレンス)

日々の疑問に思っていたり、もっと詳しく
知りたいと思っていることはありませんか。
あなたの疑問解決に必要とされる本や参考
図書を探すお手伝いをいたします。お気軽に
係員にご相談ください。
また、インターネットで本館所蔵図書の状
況が調べられる蔵書検索サービスも行ってい
ます。

予約・リクエストサービス

借りたい本が貸し出し中の場合や未所蔵の
場合は予約やリクエストができます。カウン
ターで係員にお申し込みください。はじめて
本を借りるときは、「図書貸出券」を発行しま
すので現住所が確認できるもの(運転免許証
や健康保険証など)をご持参ください。

遠隔地の方は

地元の図書館や公民館図書室を通して、本
館の図書をご利用になれます。なお、貸し出し
については各館の利用規定等によりますの
で詳しくはもよりの図書館・公民館図書室の
窓口におたずねください。

障害者ふれあい ブックメールサービス

障害のため図書館を利用できない方へ、本
の郵送貸し出しを行っていますのでお問い合わせ
ください。(送料は県立図書館負担)
登録申込書に必要事項を記入し、添付書類
を同封して県立長崎図書館までお申し込みく
ださい。

●ダウンロード登録申込書bookmail.pdf

詳しくは県立長崎図書館までお問い合わせください。

また、県立長崎図書館ホームページ(WWW.lib.pref.nagasaki.jp)でもご案内しています。

♠♥♦♣ こども室からのお知らせ ♠♥♦♣

おはなし会

毎週土曜日午後3時から約30分間
絵本や紙芝居の読み聞かせをしています。



折り紙教室

毎月最終日曜日午後3時から約1時間
ボランティアの方を講師に迎えて
教えていただいています。

開館時間

■ 火～金 午前9時30分～午後8時
(ただし、こども室・郷土課は午後5時まで)
■ 土・日・祝 午前9時30分～午後5時

休館日

■ 毎週月曜日 (国民の祝日にあたる場合は、その翌日)
■ 每月末日 (月曜日にあたる場合は、その翌日も)
■ 年末・年始 (12月28日～1月5日)
■ 蔵書点検期間 (毎年1回10日間程度) ※今年度の日程はP6に掲載

長崎ゆかりの方に自作を語って頂きます。

シリーズ2

北原白秋に師事した童謡詩人與田準一。
その詩と童謡の内実について論述した
『與田準一の戦中と戦後』を出版した
本間千裕さんに語っていただきました。

『與田準一の戦中と戦後』
高文堂出版社 本間千裕 著
カバーデザイン／本間千裕



與田準一は、大正時代の児童雑誌「赤い鳥」からデビューした児童文学者です。「ことりはとつてもうたがすき かあさんよぶのもうたでよぶ ぴぴぴぴぴ」という歌詞の作者。私は、その與田準一の児童文学を研究して、この『與田準一の戦中と戦後』を書きました。「児童文学研究？子どもにも分かる文学を、なぜ研究するの？国語の授業みたいなこと？」って思う方がいるかもしれませんね。

日本が戦争をしていたころ、多くの作家が、「戦争だ、がんばろう」というような童話や歌を作りました。今では「平和が大切、戦争はよくない」と、多くの人が思っているから、信じられませんが。書きたくて書いたのか、仕方なく書いたのか、今となっては、わかりません。

戦後、彼らはとても反省しました。與田準一もその一人で、若い児童文学者たちに批判されました。過去を批判することから、新しい児童文学を作ろうという流れがあつたのです。

戦後半世紀たつて、大学生だった私は、初めて與田準一の童話を読みました。彼の作品から、じんわりと平和への想いを感じました。後悔しないようにしなさい、という声が聞こえてきました。そして、私は、絵本作家になりました。

作品を作ることは自由ですが、私は作家として、自分に1つだけルールを決めています。それは、〈ちいさな子どもたちに、「ごめん、大人の私が間違っていたよ」と謝らなくてすむように、気をつける〉ということ。でも誰だって後悔するような作品を作ってしまう可能性があります。だから、みんなで、いいかな？どうかな？もっと良くするには、どうしたらいいかな？と考えなければならない、それが、児童文学研究だと、私は思っています。

社会情勢は複雑で、理想論だけでは通らないこともあります。でも、ガンコに理想と希望を描くことができるのが、児童文学や絵本なのだと思います。そんなことを私に悟らせてくれた與田準一の童話。長崎を舞台にした短編「ある晴れた日のこと」「長崎の卵」や、九州の町を舞台にした長編「五十一番めのザボン」は、懐かしい感じがして大好きです。長崎の方に、ぜひ読んでほしいなあと思います。

もちろん、私の絵本もぜひぜひ読んでほしいんですけどね…。



本間千裕(ほんまちひろ)
詩人・イラストレーター・児童文学研究者。

1978年、神奈川県生まれ。東京学芸大学大学院修了。
小学校5年生から高校卒業までを諫早で過ごす。高校の図書室で、国語教諭で児童文学者の二羽史裕氏から、絵本の話を聞き、絵本作家・編集という仕事をあることを知る。大学時代より、児童文学研究とともに、創作を始める。
2003年、絵本作家クラブ第5回絵本フェスタで奨励賞、04年、『詩画集 いいねこだった』で第37回日本児童文学者協会新人賞を受賞。著書、絵本に『ねこくん こんやはなにたべる?』(リープル)、『ABCブック』(らくだ出版)、挿絵に『宮沢賢治童話絵本 注文の多い料理店』(につけん教育出版)など。

子どもの本をしらべるための本 <外国の文学>

— 新しく受け入れした本からのご紹介 —

○児童文学翻訳作品総覧 大空社 2005年刊 全8巻

「赤ずきん」「幸福の王子」などの代表的児童文学約500点の、明治期以降の翻訳作品の総目録。原作者・翻訳者・挿絵画家・翻訳の特徴を明記。訳者別・挿絵画家・出版社雑誌社別の索引付。

○世界児童・青少年文学情報大事典 勉誠出版 2004年刊 全16巻

日本語で作品が紹介され、各種の賞を受賞している外国の児童文学作家・挿絵画家について略歴、作品紹介、日本での翻訳タイトル、原書名、引用文献を収録。
絵本や創作童話、民話、動物物語、ヤングアダルト、ファンタジー、詩、劇、動物記、伝記など広範囲な作者を採録。

○明治期アンデルセン童話翻訳集成 ナダ出版センター 1999年刊 全5巻

アンデルセンの日本での翻訳作品の復刻。翻訳作品・掲載図書雑誌新聞名・挿絵。
巻末にアンデルセン童話翻訳年表(明治・大正・昭和・平成)付。

○児童文学者人名事典 出版文化研究会 2000年刊 全5巻

外国人イラストレーター編、外国人作家編、日本人編(上・下)、YA(ヤングアダルト)人名事典に分かれ、作者の略歴紹介、作品名を収録。

○児童文学テーマ全集内容総覧 日外アソシエーツ 2003年刊 全2巻

世界編、日本編に分かれ、SF、推理小説、ノンフィクション、民話等の全集の内容の紹介。

○世界の児童文学登場人物索引 DBジャパン 2005年刊 全3巻

アンソロジー(詩文などの選集)と民話・昔話集篇、単行本篇上下に分かれ、ピーターパンなど登場人物名からの索引付。

文学に描かれたふるさと <1>

「長崎県立図書館建設の必要を県に説き、ついに実現させた。長崎県庁の倉庫に眠っていた明治期の行政資料を、古賀は自ら大八車に乗せて図書館に運び込んだ。また市内の紙屑屋で長崎奉行所の記録を発見し、それを図書館に買い戻させた。」

(「長崎ぶらぶら節」なかにし礼著 1999年 文藝春秋刊)

歴史学者古賀十二郎と丸山芸者・愛八が、古くから歌いつがれてきた長崎の歌を探す旅に出る、というこの小説には、長崎の地名がたくさん登場し、長崎の風土を伝えます。また、小説としてフィクションの部分もありますが、古賀十二郎は県立長崎図書館の草創期に大いに功績があった人物であり、「長崎市史・風俗編」「長崎洋学史」など多くの長崎学の名著を残しています。



私達と一緒に活動しませんか!

(長崎県読書グループ連絡協議会へのお誘い)

長崎県読書グループ連絡協議会 会長 吉野 ちえ子

長崎県読書グループ連絡協議会は、県下の読書グループ間の交流と親睦を図るとともに、読書推進運動の母体となることを目的として、昭和48年に設立されました。

年間事業として、年2回の理事会と、総会が開催されますが、読書推進のための討議と各グループ活動の事例発表の場となっております。

また、総会後に開催される文化講演会は、各界で活躍されておられる方々に依頼し、近年は、ながさき県民大学連携講座として一般県民の参加もあり、有意義な会となっております。

今年で30回を迎える史跡見学では、県下各地を歴史探訪し郷土への再認識を深めてまいりました。昨年は文化講演会において、今村明氏(大村市教育委員会学芸員)より、「キリスト禁制と大村藩」の演題で講演をお願いし、11月には大村市の史跡見学をいたしました。

また、「読書会は本との出会い、人との出会い」をキャッチフレーズとした会報「ステンドグラス」は、年3回発行され県下に広く頒布されております。

以上が活動内容ですが、このような読書活動が、高齢化社会を迎えた現在、生涯学習の一翼を担うことは言うまでもありません。

これからも県下の読書グループの皆さんと交流を深めることによって、より読書力を高めていくことができたらと願っております。

まだ、未加入の読書グループの皆さん!ぜひ私達のこの会にお入りになりませんか。



長崎県読書グループ連絡協議会
長崎市立山1丁目1番51号
長崎県立長崎図書館内
TEL(095)826-5257

平成18年度 行事案内(11月~2月)

- 11月 長崎県公共図書館長会議
(20日 本館研修室)
第3回県立長崎図書館講座
(25日 " 講 堂)
- 12月 第2回図書館実務研修会
(4日 " 講 堂)
子ども大会 (16日 " 講 堂)
- 2月 第2回県立長崎図書館協議会
(5日 " 研修室) (予定)
県読書グループ連絡協議会第2回理事会
(16日 東彼杵町)

休館のお知らせ

電子計算機システムの更新及び
蔵書点検等のため下記のとおり休館します。

休館期間
平成19年1月18日(木)から
平成19年2月13日(火)まで

休館中は、貸出、調査相談、予約、相互貸借等のサービスも休止します。
図書の返却については、県立図書館玄関横の返却ボストをご利用願います。
ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。